

1 番 和 田

それでは、一般質問を始めさせていただきます。

受付番号1号、質問議員1番、和田成功。

件名「公共施設の長寿命化に向けて」。

公共施設等のファシリティマネジメント、維持管理及び財政調整基金の重要性については、過去に建設された多くの公共施設等が老朽化し、これから大量に更新時期を迎えることになる。

一方で、町の財政は依然として厳しい状況にあり、町が公共施設等の全体の状況を把握し、中・長期的な視点を持って維持管理、更新等に係る財政負担の軽減、平準化や施設配置の最適化を図らなければならない。

さらに、公立学校等施設は児童・生徒等の学習・生活の場であり、地震等の災害発生時には地域住民の応急避難場所としての役割も果たすことから、その安全性を確保することは極めて重要であると考え、質問する。

1、各園、小学校、中学校の施設維持管理等への取組状況は。また、今後の計画は。

2、今後予定されている体育施設の建設、維持管理等についてどのように考えているのか。

以上。

議

長

答弁願います。

町長。

町

長

それでは、和田成功議員から「公共施設の長寿命化に向けて」についての御質問をいただきました。

初めに、1点目の御質問の「各園、小学校、中学校の施設維持管理等への取組状況は。また、今後の計画は」についてであります。岸幼稚園を除く園や小・中学校は、昭和51年度から61年度にかけて建築いたしました。建築後の維持管理は、小・中学校では耐震化工事、外壁や屋上の改修工事、トイレの洋式化等の工事、各園においては屋上の防水工事や施設の老朽化に伴う改修工事を実施してまいりました。

多くの園舎、校舎が築40年以上を経過しておりますが、中・長期的な視点に立った計画的な維持管理に努めることで、施設をできるだけ長期間にわたって使用できる長寿命化を進めることにより、更新時期の集中化を避け、財

政支出の平準化を図ることが重要なことと考えております。

町では、公共施設の現状把握と将来の利活用についての基本的な考え方を整理するため、平成29年3月に「山北町公共施設等総合管理計画」を策定し、この計画との整合性を図りながら「安全性」「快適性」「学習活動への適応性」並びに災害時の避難所としての「地域の拠点化」の観点を踏まえ、令和3年3月に「山北町学校施設長寿命化計画」を策定いたしました。

計画に基づいた施設整備を進めるために、今年度、川村小学校施設長寿命化改修工事検討会を開催し、学校からの要望も取り入れ、改良工事に係る基本設計を実施いたしました。

今後の整備計画は、令和6年度に構造体劣化状態診断、アスベスト調査並びにB棟実施設計を行い、令和7年度にB棟長寿命化改修工事とA棟実施設計、令和8年度にA棟長寿命化改修工事を実施したいと考えております。

また、山北中学校の長寿命化改修工事や向原保育園の移転を含めた建て替え並びに各園舎の改修等の検討を考えております。

次に、2点目の御質問の「今後、予定されている体育施設の建設、維持管理等についてどのように考えているのか」についてであります。旧山北体育館代替体育施設については、今年度、実施設計を行っており、年度末に林業・木材産業等振興交付金の採択が内示されましたら、令和6年度から建築工事の着工を予定しております。

施設については、脱炭素社会実現に寄与し町産木材を多く利用した木造施設とし、町民に愛され誰もが集い憩える場所として、圧迫感を感じさせない開放感のある高さを確保しております。外装については、耐久性の高い素材を活用し、かつ防水性・防湿性に配慮した材料を考えております。

また、災害時の避難所として活用できる施設とするため、移動式非常用発電機が接続できる接続盤やマンホールトイレ対応桟を設けるなど、有事に備えていきたいと考えております。

さらには、セキュリティー機能としての防犯カメラの設置のほか、女子更衣室に設ける授乳スペースや休館時間帯での一定の時間に利用できるトイレなど、利用者の利便性を考えた施設計画となっております。

しかし、最近の物価高騰や労務費の上昇と併せ、製造業拠点の設備投資の

増大や大都市での大型プロジェクト等により、建築工事全般の価格上昇が生じております。このように建築費用も当初より上昇している状況であるため、設備等の必要性を十分考慮した中で、コストダウンに努めてまいります。

また、長期的視点をもって長寿命化などを計画的に行い、修繕やメンテナンスに係る費用を平準化するよう財政的負担を軽減し、施設の適正な管理を行えるよう管理計画を策定することとしております。

これにより、職員等管理者による日常点検項目のマニュアル化や専門業者による定期点検、スケジュールの計画化、不具合の早期発見と予防的な修繕等が可能となり、施設の長寿命化につながるものと考えております。

議 長 和田成功議員。

1 番 和 田 それでは、答弁が終わりましたので再質問をさせていただきます。

回答の中にもありますけど、更新時期の集中を避けというふうな御回答でしたけれど、築40年を超える50年に近い建物、校舎等あると思うんですけど、これ、来年度以降、順次進めていくって、集中しちゃってるような感じがするんですけど、その辺についてはどのように捉えているのでしょうか。

議 長 町長。

町 長 先ほど申し上げましたとおり、長寿命化も考えて、また老朽化している施設等々のことを考えますと、やはり段階的に、それらを改修していくというように必要ではないかというふうに考えておりますので、取りあえず小学校のほう、A棟・B棟含めて改修して、そして、また各園については、特に向原保育園については移転まで考えておりますので、そういったことも視野に入れながら進めていきたいというふうに考えております。

議 長 和田成功議員。

1 番 和 田 基本的に公共施設の長寿命化、私は大賛成でどんどん取り組んでいただきたいかなといったところなんですけれど、おおよその目安として、築40年程度で長寿命化、大規模改修するのであればその辺だといったところがおおむねなんですけど、50年に近い四十七、八年ですか小学校に関しては。その辺になるかと思うんですけど、もうちょっと早いタイミングで検討を始めて実施ができたんじゃないかなというふうに考えるんですけど、協議を重ねてきたと思うんですけど、その辺について、どういう会議体というんです

か、いつ頃からどういう検討をされてきた、そういうちょっと細かな話ができればと思うんですけど、いかがでしょうか。

議 長 町長。

町 長 当然ですね、長く50年とかそういったような機会をできるようにしたいというふうに思っておりますけども、たまたま建築された時間が同じような10年間の間で建築されたということもございますので、そういった中でこれから、さらにその施設ごとに長寿命化できるようにしていきたいというふうに考えておりますので、これからは当然40年でなくて、50年とか、さらに長い期間、耐え得るようなそんなようなことが必要ではないかというふうに考えております。

議 長 和田成功議員。

1 番 和 田 今の回答、ある程度は理解させていただくんですけど、ちょっと個人的にはちょっと遅いのかなと、もっとスピード感を持って、延命化、大規模改修等を進めるべきだったのかなといったところなんですけれど、現状、川村小学校A棟・B棟両方雨漏りをしているという現状はいつ頃から把握されるのでしょうか。

議 長 こども教育課長。

こども教育課長 雨漏りにつきましては、五、六年ぐらい前にはもう雨漏りがあるということで、雨漏りの箇所をいろいろ確認しながら、個別に屋上の改修といいますか、工事をさせていただいたんですけども、一つのところを手をつけると、ほかのところでもまた漏れてしまうということで、なかなか解消に至らないということで、今回の大規模に屋上全体を工事させていただきたいということで、この計画を立てさせていただいてございます。どうしても屋上のある建物ですので、雨が降ると水がたまってしまうという、どうしてもそういうところがございます。ですので、今回屋上全面の改修をしたいということで、対症療法では雨漏りが止まらないということでやらせていただきたいということで考えてございます。

議 長 和田成功議員。

1 番 和 田 雨漏りの把握は五、六年前からして、対症療法というか、修繕されてると。でも止まっていない現状もあると。であるならば、もっと早急に長寿命化、

大規模改修を実施すべきだったというふうに考えるんですけど、このタイムラグというんですかね、その辺についてはどのようにお考えでしょうか。

議長　こども教育課長。

こども教育課長　議員がおっしゃるとおりかなとは思いますが、まず、それぞれ雨漏りのところで止まればいいなということで工事をさせていただいてございます。やはり、それではということと、あと50年近くたっていますので、ここで改修をすれば、あと二、三十年は使えるということで、国の補助金もあるということで今回やらせていただきたいということで考えてございます。

議長　長　和田成功議員。

1 番 和 田　今答弁の中に、改修工事、大規模改修工事、延命化ですか、すれば二、三十年校舎が使えるというのが見えてくるというような御回答だったかと思うんですけど。では町として、二、三十年後の生徒の数、この辺どういうふうに推測といいますか、見てられるのか。二、三十年後の小学生、中学生に対して、どういうビジョンというんですかね、そういうものをお持ちで、延命化するというなら整合性があるといいますか。ただ単に今改修工事、長寿命化しますよって、問題を先送りするのではなくて、その辺の20年、30年先のビジョンは、町としてどのようにお持ちなのか、その辺について、御回答願います。

議長　長　町長。

町　長　はい、おっしゃるとおり、個人的には、やはりその当時、学校とかそういうのは陸屋根が主流で、ほとんどのところが陸屋根にした施設が多かった。学校だけではございませんけども、そして私がPTA会長やってるときも、やはり屋上の排水のところに泥が詰まって、あふれて水漏れが起きたというような経験もございます。

そういった意味では、やはりあの構造体だけでは、どうしても雨漏りとかそういったものに対して弱いんじゃないかというふうに考えておりますので、そういったようなことも含めながら、やはり雨漏りだけを防げばいいかということにはなりませんけども、今現在、例えば中学校の体育館の要するにエアコン等の計画をいたしました。しかし、どうしても断熱効果がない建物で

すんで、入れても効果が少ないというようなことを言われました。

そのように、なかなか今のこの我々の生活している空間と、その当時の40年前の皆さんのお考えになったことがずれが生じている。そういったようなことをやはりこれから少しずつでも直していかなければいけないということが一つ。

それから、人口減少社会の中でありますから、当然、公共施設については直して長寿命化すべきなのか、あるいは廃止してなくしてしまうほうが合理的なのか、そういったことも考えていかなければいけないというふうに考えておりますんで、そういったことを考えてのいろいろなことを総合的に皆さんと御相談しながら進めてまいりたいというふうに考えております。

議 長 和田成功議員。

1 番 和 田 ちよっと私の質問とニュアンスが違うような回答だったかと思うんですけど、将来のビジョンというんですか、こちらに将来人口フレームというので、ゼロ歳から14歳の当町の人口、2020年で822人、2033年目標値ですけど、611人と、この10年で200名以上少なくなる見込みである。20年後、30年後、さらに少なくなる生徒児童の数。そういった中で、今現状の川村小学校2棟、20年、30年の延命化が必要だという判断をしたのであれば、20年後、30年後のそのビジョンをきちっと描いた上で長寿命化するというのが整合性というか整合がとれるのかな。そのもしビジョンがあるのであれば、ビジョンを示していただきたいというのが私の質問の趣旨なんですけど、いかがでしょうか。

議 長 副町長。

副 町 長 将来的なビジョンということですけども、今の現状の中でやるとなると学級の数減ると思います。ただ、国の、今施策の中で、個別最適な学び、これが今うたわれています。そういう中で、今現在40人学級から、これまでの40人学級から35人学級に変わろうとしています。さらには、これがもっと少なくなる可能性があるということが一つ。

それから、もう一つが教科担任制、小学生も、小学校でも教科担任制をするということで、もう既に始まりつつあります。

そういう中で子どもたちの学びを確保するためには、それなりの教室、いわゆる学級数を少し少人数にして学んでいこうという、そういう考えでござ

います。あるいは、これから国際化教育の中で、英語教育の中で、そういった教室等もさらに必要になるだろうし、さらには学童、今小学校は学童の教室に使ってます。これらをさらに、いわゆる環境のよい教室、施設、そういうことも考えてございますので、そういう中で、今回の川村小学校の改修につきましては、今の現状を、教室数、こういったものを確保しながら、そしていろんな面で子どもたちの学びを充実させていこうという、そういう考えでございますので、川村小学校についてはそういう考えの下で、今改修工事に向けての計画を立てて、そして実施計画につなげていきたいというふうに考えてございます。

議 長 和田成功議員。

1 番 和 田 今の副町長の御回答、十分理解させていただきたいと思います。

ところで、ちょっと具体的な話になってしまうんですけど、長寿命化、防水処理だけでなく、長寿命化のメニューというんですか、どういったことを考えられているのか、ちょっと細かな話になってしまうんですけど、その辺についてはいかがでしょうか。

議 長 こども教育課長。

こども教育課長 今回、長寿命化を考えているのは、今回当初予算のほうで出させていただいておるところではございますけれども、構造体の劣化の診断、それと建物塗装等のその辺のアスベストの含有の調査、それとB棟の実施設計ということで挙げさせていただいてございます。

構造体の検査ということだと、コンクリの劣化の状況、それと中の鉄筋の状況、これを確認して、再来年度の改修のほうにつなげていこうと。それと、塗装も周りのほうさせていただきます。

それと、あと内部のことになるんですけども、これも今、今回検討委員会のほうで、3回、学校長等交えて検討している中で、教室の中、床とか天井、それと省エネということで、電球のLED化を考えてございます。それと窓のほう昭和の時代に作られていますので、そちらのほうで熱のほうの逃げたりとか外の熱が入ってるということで、断熱効果がそこで損なわれるということで、そちらの窓のほうも二重サッシ等の断熱効果の高いものに変えていこうということを考えております。

また、細かいことは学校とまた来年詰めていくところはございますけれども、一つ要望としましては普通教室のほうにある教壇というのがあるんですけども、今学校のほうで上のほうからこうやるというような授業がないということで、教壇の撤去のほうの要望が出ております。教壇の撤去等を、一応今のところ考えて、教室をフラットな床のほうにしていきたいなど。そうなりますと、いろいろ将来につきまして使い勝手のいい教室になっていくんじゃないかなと考えてございます。

それと昇降口のほうの、前々から学校から要望がある下駄箱等が昔のサイズで小さいということで、今、体格がよくなって、靴も大きくなる、それと長靴等も入らないと、そういうお話がありますのでそちらのほうも改修をしていきたいとそのように考えてございます。

議 長 和田成功議員。

1 番 和 田 40 年以上前の基準で建てた校舎だと思うんで、この長寿命化を機に今の教育環境、今の子どもたちといいますか、児童生徒に最適な教育環境というのが担保されるような改修に努めていっていただきたいなというふうに考えます。

細かな話ですみません。下駄箱を改修というようなお話でしたけど、木質化、町産材を使ったり、そういうことも今後検討していただければなというふうに考えるんですけど、その辺についてはいかがでしょうか。

議 長 教育長。

教 育 長 今回の和田議員の話の中にもありましたように、確かに木材的なものを取り入れるということは、今後の建物の構造とかその辺りと同時に、今、先ほど話があったように関係の学校、特に子どもたちの意見であるとか、先生方、使う方々のニーズに応じながら検討していきたいと思います。

議 長 和田成功議員。

1 番 和 田 その辺は前向きに検討していただきたいなといったところと、あともう一点、省エネ化というんですかね、そういったところは断熱効果の高い二重サッシ等をするというようなお話がありましたけど、省エネ化にだけにとどまらず、再生可能エネルギー、これの設置というのも検討されてると思うんですけど、その辺についてはいかがでしょうか。

- 議 長 こども教育課長。
- こども教育課長 今回、基本設計の中で検討をさせていただいてございます。その中で再生エネルギーといいますと太陽光発電等を考えられると思うんですけども、そのパネルを載せるとしたら屋上とか、その辺になると思うんですけども、その辺、あと将来にわたるランニングコスト、それと設置のときのコスト、その辺総合的に判断して、今回は太陽光発電等を設置するということをちょっと見送ろうかなということで考えてございます。
- 議 長 和田成功議員。
- 1 番 和 田 今、設置を見送るというようなお話でしたけど、第6次総合計画の案のところにも公共施設等に再生可能エネルギー設置等というような文言が入っていると思うんですよね。ここ整合性といいますか、その辺はどういうふうに捉えているのか。御答弁願います。
- 議 長 環境課長。
- 環 境 課 長 現在、総合計画の改定によりまして、再生可能エネルギーを推進していくということでございます。町としましては来年度に環境基本計画、こちらの改定を予定してございます。この中に、今現在あります現行の新エネルギービジョンとか、再生可能エネルギー導入に向けた考え方をしっかりと、この環境基本計画に整理をして、それで町の再生可能エネルギー、環境全般でございすけども、グランドデザイン、要はロードマップをしっかりと整備をした中で、それに基づいて町として取り組んでいくという作業を来年度やっていきたいというふうに考えてございますので、そのような考えで、今進めているところでございます。
- 議 長 和田成功議員。
- 1 番 和 田 今、御答弁ありましたけれど、グランドデザインをしっかりとつくって取り組んでいくといったところで期待してよろしいんでしょうかね。いま一度お聞きします。
- 議 長 副町長。
- 副 町 長 今、課長から話しましたように、環境基本計画、これをつくっていきます。それに基づいていろんな公共施設、これについてどう考えていくかということで考えていきたいというふうに思いますので、今後の中で、これからもう

来年、6年度からこういう計画づくりに当たっていきますので、その中で公共施設、新しく建てるものについては、今後、6年度以降建てるものについては、今後の計画の中にはそういったものを落とし込んでいく、必要に応じてですね。そのところをやっていきたいというふうに思っておりますので、当然、川村小学校、山北中学校、そういったあるいは園、そういったものも関係するかというふうに思いますので、それらのところについてはしっかりと検討していきたいというふうに考えてございます。

議 長 和田成功議員。

1 番 和 田 期待が持てるような御答弁かと思えますけど、期待しておりますので、その辺は積極的に検討、取組等をしていっていただきたいなというふうに思います。

長寿命化、現在のその基準に合うような、よりよい教育環境というのを提供できるような改修というのを前提に進めていっていただきたいなというふうに思います。

それで今度、体育館のほう、校舎は川村小学校の体育館等の改修等もあるのかなというふうに考えますけど、やはり避難所としての機能を備えなければいけないといったところで、体育館に関しても、築50年近くになるのかなといったところで、当時の基準で建てている。現状の今の変化、環境変化等でちょっと避難所として環境的にどうなのかというところもあるんですけど、その体育館の改修、長寿命化についてはどのようにお考えでしょうか。

議 長 教育長。

教 育 長 体育館についても、さきの能登半島地震、そういうものを見ますと、本当に現実の問題にはなっております。現状の中で、今後、改修工事を行うに当たっては、その辺りを十分踏まえた上で考えていきたい。

あわせて、子どもたちの学校教育、そういう教育現場の部分を担えるような総合的なものとして、今後考えられるというふうに思います。

以上です。

議 長 和田成功議員。

1 番 和 田 学校の体育館ですから、生徒たちのよりよい環境になるような改修が期待される、期待してるんですけど、避難所という側面的なところから、やは

りもし災害時に避難所として使うことを想定してるのであれば、先ほども言いました再生可能エネルギー、ソーラーパネル等を屋根に乗せられるかどうか、そういったところで、より安心・安全のまちづくりにつながってくるのかなといったところなんですけど、その辺について、すみません、いま一度御答弁願います。

議 長 教育長。

教 育 長 今回の再生可能エネルギー、こういうものについても、今後、地震等で必要に応じて設置する、そういう方向でまた検討もしていきたいというふうに思います。

以上です。

議 長 和田成功議員。

1 番 和 田 設置に向けて、積極的に取り組んでいていただきたいというふうに思います。

それで、ちょっと質問が前後してしまって申し訳ないんですけど、改修、長寿命化の工事の費用については、学校施設環境改善交付金等を視野に入れてやられてるのか、その辺について、お聞かせ願います。

議 長 こども教育課長。

こども教育課長 その交付金のほうを申請するということで今準備してございます。設計段階では、まだ交付金というのは出ないんですけども、工事が終了した順次、その交付金が決定されるということになってございます。

議 長 和田成功議員。

1 番 和 田 私言った学校施設環境改善交付金等の申請をされると。長寿命化改良につきましては3分の1の補助というふうだと思うんですけど、これがもう少し早い段階というんですか、三保小学校閉校して川村小学校に統合されたそのタイミングであるならば、統合改修工事というような形で2分の1補助、ないし、太陽光発電等の設置についても2分の1補助というふうなメニューだと思うんですけど。いや、今さらながらなんですけど、最初に言ったように、タイミングがちょっと遅かった。ここに合わせれば、2分の1補助が行けたんじゃないのかなというふうに考えてしまうんですけど、その辺についてはいかがでしょうか。

議 長 副町長。

副 町 長 統合のタイミングでという話だったんですけども、その段階、その10年も前になります。小中学校が統合したのが。三保小学校はその後数年前になったということですけども、そのタイミングでという話だったんですけども、その段階では、先ほど課長が話しましたように雨漏り等があって、その段階で対症療法ですけども、それぞれ改修工事にかかなりの額を充てたんですけど、なかなかそれがうまくいかないということで、今回大規模的な改修工事という形になってございます。

ですから、タイミングが結果として遅いと言われればそうかもしれませんが、その対応をどう図っていくかということで、こちら、やらないってことじゃなくて、やるんですけども、どのタイミングでということいろいろ検討してきた中で、今回に至ったということでございますので。早ければ早い方がいいんですけども、いろんな施策もありますので、それだけを考えてやっていくわけにいきませんので、そういう今回はそういうタイミングだったということで御理解いただきたいというふうに思います。

議 長 和田成功議員。

1 番 和 田 調べてる中でそういったものが出てきたんで、もうちょっと早ければよかったのになというような、個人的な意見なんであれですけど、そういうふうに、ことがないように、なるべくこういった問題に関しては、雨漏り等があってというのが小学校、現状ありますよね。こども園に関しても雨漏りしてるという現状、もう数年前から私自身も把握してます。ずっと雨漏りが続いている。そういったところはもう積極的に改修等を進めていくのがやっぱり町としての子どもに優しいまちづくりといったところではあるんじゃないかなというふうに感じるんですけど、その辺についてはいかがでしょうか。

議 長 教育長。

教 育 長 今、言われたとおりだと思います。今後の、やはり長寿命化も含めて、こども園の子どもたちのより有意義で、快適に過ごせるような環境づくり、これからも目指していきたいと思います。

以上です。

議 長 和田成功議員。

1 番 和 田 今、教育長のほうから前向きなとても期待が持てるような御回答であったんですけど、そういったふうに取り組んでいていただきたいと。

それで、町長の回答の中にもありましたけど、向原保育園については移転等も含めてというふうな形の御回答かと思うんで、だったと思うんですけど、移転までまだ大分先ですよといった中で、環境改善というか、改修、よりよい保育環境ですかね、それをするための改修工事というか、修繕、環境整備というのは、数年後に移転するからもうあまり改修とか費用をかけないんだという趣旨ではないとは思うんで。その辺も、よりよい今現状の保育環境に基準に照らし合わせて、よりよい保育環境になるような改修は進めていていただきたいなというふうに感じるんですけど、いかがでしょうか。

議 長 教育長。

教 育 長 現在の向原保育園、確かに温熱化であるとか、いろいろな問題が抱えてる中で、クーラーの設置であるとか対症療法にはなってる部分もありますが、もちろん子どもたちの命、生命、財産が最優先ですので、そういうものについても、できるところの中から取り組んでいきたいというふうに思います。

以上です。

議 長 和田成功議員。

1 番 和 田 期待しております。

いろいろ今まで答弁、御回答いただいている中で、対症療法的な事後保全の管理というのが、山北町の現状の管理の体制なのかなといったところで、やはり予防保全型の管理という、維持管理というのを進めていった上で、長寿命化というのが見えてくるのかなというふうに感じます。はっきり事後保全の管理だというわけではないでしょうけれど、積極的にその辺が予防保全型管理、維持管理というふうな取組をしていくべきだと考えますけど、その辺についてはいかがでしょうか。

議 長 教育長。

教 育 長 今までの取組、確かに維持管理というのはそういう状況ができてきてから対処するということが往々にあるんですけども、今後、今言われました予防保全型、事前にそういうところの検査等の実施しながら、前向きで検討していきたいというふうに思います。

以上です。

議 長 和田成功議員。

1 番 和 田 学校や園に関しては教育長がそういうふうにお答えいただきましたけど、町全体の公共施設についても、やはり予防保全型管理維持というところをしていくべきかなというふうに考えますが、その辺について、町長いかがでしょうか。

議 長 町長。

町 長 おっしゃることはよく分かりますし、当然そのようなことを検討していかなければいけないというふうには考えておりますけれども、教育環境というのは、施設的なものも当然ですけど、内部のカリキュラムとかそういったものもございまして、様々な中で教育環境考えていかなければいけない。そして我々としては、その施設については、やはり教育関係に合った施設にその時代に合ったようなものにしていかなければいけないというふうには、常に思っておりますけども、できるだけ、保護者、あるいは先生、あるいは生徒たちとコミュニケーションを取りながら、さらに皆さんに安心して授業を受けていただけるような施設にしていきたいというふうに考えております。

議 長 和田成功議員。

1 番 和 田 恐れ入ります。教育の施設に関してはそういうふうな見解だと、町長も教育長も含めて。それ以外の公共施設について、町として、事後保全管理型でいくのか、予防保全型でいくのかといった場合に、やっぱり予防保全型維持管理というのに取り組んでいくべきだというふうに私は考えますが、町としてはどうですかという質問なんです。再度すみません、お願いします。

議 長 町長。

町 長 当然そういうような考えも、当然必要だというふうに思っておりますけども、全体の中で、学校だけに限らず様々な公共施設をどのようにこれから長寿命化していくということは答えがあるあれではございませんので、やはり、その時代時代に合ったものを我々としては考えていかなければいけないというふうに思ってます。

特に昨今の、このデジタル化の波というのは、施設等にもかなり影響を与えております。もう建物がいくら保存状態がよくても、デジタル化に合致し

ないとか、様々なことが起きておりますんで、そういったような中で、その時々合った最適化について、皆さんと御協議しながら進めてまいりたいというふうに私は考えております。

議 長 和田成功議員。

1 番 和 田 そうですね。各園、小学校、中学校、今の時代に合った、この先将来的にも合うようなすてきな教育環境、保育環境というものの整備にこれからも積極的に町として取り組んでいっていただきたいなというふうなところなのでございますけれど、その辺について、再度、町長いかがでしょうか。

議 長 町長。

町 長 先ほどの繰り返しになりますけれども、基本的なところは、やはり町としてのそういったような各施設等、どのように最適化にしていくかということは、本当に先ほどもお話の中で言いましたように、これが答えなんだというのは、私ははっきり言っていいのかなっていつも疑問に思っております。四、五十年前にこういう陸屋根がいいんだとか、今でしたらSDGs、あるいはその太陽光がいいんだ、再生エネルギーがもう何でもいいんだ、そういう考えがもうほとんど占めちゃっています。反対するわけではございませんけれども、やはり一つはそれに対して、疑問に思っていかなければ、我々としてはその当時は、もう再生エネルギーが100%だと。最近読んだ中では、風力発電は森林を枯らすというような意見もあるそうです。

ですから、必ずしも、社会全体がその方向に向かうことは私は否定はしないんですけど、そればかりになるというのは、やはり危険ではないかというふうに考えております。その中で、その方向性を目指しながら、最善の方向を目指すというのが、私としては行政のあるべき姿ではないかというふうに考えております。

議 長 和田成功議員。

1 番 和 田 はい。ということで期待しておりますので、積極的に取り組んでいっていただきたいというふうに思います。

続きまして、2番の体育施設建設、維持管理等について再質問をさせていただきます。

最初の答弁の中に、脱炭素社会実現に寄与し、町産材木を多く利用した木

造施設として町民に愛され誰もが集えるような場所というんですか、憩える場所というふうな御回答があったかと思うんですけど、これ、町民の方にきちっと理解を得られているのか、ちゃんと説明、町としてきちっと説明できてるのかといったところをちょっとお伺いしたいんですけど、いかがでしょうか。

議 長 生涯学習課長。

生涯学習課長 町といたしましては、基本設計を行った後、町の広報等でパブリックコメントということで町民の意見を伺ってまいりました。パブコメの中では、4名、八つの御意見もいただいているところでございます。

そのほか、去年の10月には周辺4自治会、萩原下・馬場・田中・田屋敷の自治会長さんのところに直接出向いてまいりまして説明を行ってまいりました。ただ、しかしそれだけでは十分とは考えておりません。自治会長への説明の中でも、やはり町民への説明はしっかりとしなければならないだろうというお話、御意見もいただいておりますので、今後、町民の皆様を対象とした住民説明会なんかも開催をいたしまして、さらなる周知を図っていかねればいけないかなと考えております。

議 長 和田成功議員。

1 番 和 田 私個人的には、建設等についてどうのこうの言うつもりはございませんし、脱炭素社会というのを寄与するというので町産材を多く使うというようなお話だったんですけど、町産材どの程度の割合で使われるのかといった細かな話になるんですけど、その辺についてはいかがでしょうか。

議 長 生涯学習課長。

生涯学習課長 こちらの木材施設の建設においては、県産木材100%、その中で町産材、今現在、もうほぼ100%に近い95%ほどは原木を確保できている状況で、製材のほうも行っております。主たるところは、湯触、大蔵野が多いんですけども、当初考えておりましたヒノキとスギの、スギのほう若干足りないというところで、県森連さんとも相談をさせていただきまして、平山、それから皆瀬川、それから世附の木材も今回製材しているような状況でございます。100%に近いような状況です。そこが95%ぐらいなんですけど、残りは、南足柄市さんのほうにも御協力をいただきまして、県産材100%でということが

確保できているところでございます。

以上です。

議長 和田成功議員。

1 番 和 田 町産材を多く使うといったところで、町の資源でもある木を使われるという
ことに関して、もっと積極的に取り組む、木質化、木造だけじゃなくて、
先ほどの学校施設等も木質化等、町産材を使ってより町の資源を有効活用し
て、また子どもたちにとっても木育じゃないですけどそういった木に触れる
機会を多くするといった先進的な取組って必要なのかな。

木材を使う、町産材を使うということ、今回建てるのに使われるといった
ところで、今、県等の関連団体等とか、近隣のところと連携してるようす
けど、これが森林の利活用じゃないですけど、活性化、林業活性化にもつな
がるようなそういった取組が必要ではないかなというふうに考えるんですけ
ど、その辺についてはいかがでしょうか。

議長 生涯学習課長。

生涯学習課長 今、和田議員がおっしゃられたように、国の補助金を使ってこの建設をさ
せていただいております。取組につきましては、県内の神奈川県、それから
県政総合センター、それから県森連ですね、それから神奈川材木業活性化協
議会、それから生涯学習課だけでなく、町の農林課などにも協力をいただ
きまして、プロジェクトチームをつくってまいりました。調整会議を5回ほ
ど開いておりまして、施設の建設のため、それから国の交付金の獲得のため
に、木材の調達方法を一緒に考えてまいりました。そのプロジェクトチーム
に、町の森林組合、それから製材業者にも加わっていただきまして、原木の
サイズ、品質、量なども調整してまいりました。

先ほども申し上げたように皆さんの御協力、賛同いただいて、山北町がト
ップバッターとして、100%の県産材の公共施設を建てまして、県産木材を
どんどん活用していこうというのを発信をしまして、その取組を横浜とか川
崎の方、都市部の皆さんに見てもらって、活用の道を広げたいというところ
で、やってみりました。

これを県産木材活用の山北モデルというところもつくりたいというところ
も、今回の体育館建設については、大きな目標だと思っております。

以上です。

議 長 和田成功議員。

1 番 和 田 ちよつと時間がなくなつてきてしまつたんで、駆け足になつてしまいますけれど、林業活性化、県内で一番最初のモデル事業になるのかなといったところは期待されるんですけど、この後の予算特別委員会等でも質問が出るかと思うんですけど、当初、体育施設建設のとき、1億5,000何がしだった。ウッドショック等の社会情勢で見送ります、一旦中断されたかと思うんですが、その後に木造で、今言われたような趣旨での方向性で体育施設を建設に向かつて検討します。その後、2億円を大きく超えることはないというような回答もあった、答弁があったかと思います。実際、来年度、令和6年度当初予算で3億近くですかの予算が計上されております。ちよつとその辺が説明不足なのかなと。趣旨は分かりますけれど、町民に対しても議会に対してもちよつと物価高騰で一回止まつたんであれば、この物価高騰が続いてる中、いま一度立ち止まって再検討というのにも必要なのかなというふうに考えますけど、その辺についてはいかがでしょうか。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるように、このときの今現在の資材の高騰、労務費、様々な問題が一気に押し寄せてきております。当然、これについては、限られた財源の中で作るわけですから、ぜひともそういったような、なるべくコストを下げ、やりたいというのは当然のことですけれども、ほとんどの今自治体の組長さん、昨日もたまたま小田原でそういった会議があったときに、ちよつと話し合つたんですけど、頭の痛い話ではございますけれども、しかしそれに進めていかなければ、次がないというようなことが私としては必要だろうというふうに考えてます。

そもそもの問題は30年間も日本がデフレで物価が上がらずに、ずっとずっと来てしまつた。世界とのバランスが取れなくなったところで、今現在、こういったような問題も発生してるわけですね。本来であれば徐々に上がっていった物価であれば吸収できたはずなんですけど、それが今、ある程度その是正が起きているということで、これをなかなか吸収するのが、我々にとつても非常にうちだけの問題じゃなくて非常に難しい問題だというふう

に考えております。

しかし、それをどこがやらなきゃいけないかというと、やはり先頭切っては行政がやらざるを得ないだろうというふうに考えております。そういった意味では、確かにだからこれでいいという私は申し上げているわけではございませんで、できるだけ有効な財源ですから、皆さんから預かった税金でございまして、それを有効に使うように考えてはいきたいというふうには思っておりますけれども、やはり必要なもの、そして計画されたものを何とかそれを実現する、そのためのコストアップが、今、日本全体に起きてるということは認めざるを得ないんじゃないかというふうに思っておりますので、ぜひ皆さんと一緒に、それを乗り越えるような何か、そういったような前向きな考え方で進めてまいりたいというふうに思っておりますので、ぜひお力をいただけたらというふうに思っております。

議 長 和田成功議員。

1 番 和 田 すみません、大分時間もなくなっちゃって、聞きたいことの半分も聞けてないですけど、この後の予算特別委員会でその辺は詳しく聞かせていただこうかなとは思っているんですけど、体育施設に関して災害時の避難所としても視野に入れてるといったところでホールトイレ等も設置に向けて動いている。

今、町長の答弁で、行政として先頭切って進めていかなきゃいけないといった部分は再生可能エネルギーというのも、やっぱり行政として、先頭を切って、町民全体を、町全体を引っ張るような形でやるべきだなというふうに考えるんですけど、多分この体育施設にソーラーパネル等の設置はないような話を聞いております。その辺が矛盾して何とも納得できないような部分があるんですけど、私だけなのかどうか知りませんが、私を感じる限り、やっぱり町民にここの周知徹底というんですか、説明不足である。町民が理解してない部分が多くある。ちゃんとそういった部分でちゃんと体育施設の建設の意義だったり、今後の利活用というか、そこに建設することによって、地域の活性化だったり、林業活性化だったり、町の課題解決につながっていくんだよといった、そういった説明ですか、ビジョンというののもちゃんと行ってから施策に取り組んでいただきたいなって、執行にしていだきたいな

というふうに考えますけど、最後にいかがでしょうか。

議
町

長 町長。

長 ありがとうございます。おっしゃるとおり、我々も正直言って何回か説明を聞いておりますけども、なかなかこれに対応できるという、ああ納得したというような、自分自身で、そういうふうには実際問題にはなっておりません。正直言って、上がる状況、今の現在がどうあるかはよく理解しております。しかし、じゃあどれが最適なのか、我々の判断として、そして皆さんにどういうふうに説明して御理解いただけるのかというのは、非常に難しい問題だというふうに思ってます。

一つだけじゃないんですよ。もう全てのものが変わって上がっております。ちょっと前には電気代とか、様々にいろいろなものが上がりましたけれども、これを、なかなかじゃあ上がった、いくら上がるのが適正か、あるいはどうなのかというようなことを、我々としてもいただいたデータを仮に皆さんに御説明して、じゃあそれで納得いただけますかと言ったとしても、やはり大半の方は、うんんというふうになるんじゃないかなというふうに考えております。

そのように、今行政が一番の課題としておりますのは、今回の代替施設の体育館だけじゃございませんで、様々な問題が、全てそこに該当していきます。もういろいろなものを何をやるにしても、我々は当然予算を皆さんにお願いするわけですから、その中で一つ一つがそこに全部該当してきてしまいます。そういったようなことを説明は当然不十分だと言われれば我々も、丁寧に説明しなければいけない責任がありますんで、それはさせていただきますけども、ぜひ皆さんでも、今の物価上昇というのですか、特に今は資材ですけども、そういったようなものを御自分でも情報を取りながら、調べていただいて、実際自分はどうなんだと。こういう方法があるじゃないかと、そういったようなことを我々にまた情報で教えていただければ、そういったようなことはさせていただこうというふうに思っておりますけれども、実際、あらゆるものが上がってきてしまっていて、そしてそれが今現在の町の行政、財政にも影響を与えております。本当に、申し訳ないという表現がいいかどうか分かりませんが、本当に今回の大きな値上げというのですか、そうい

ったものはどのパーセントが適正なのかというのが、正直いまだにここだところ
いうところがございます。そういった意味では、ぜひとも皆さんと一緒に
なって、この問題をまたクリアしていかなければですね、町の財政も適正に
運営できないというふうに思いますけれども、ぜひ一緒に、考えてい
きたいと思いますので、よろしくお願ひしたいというふうに考えております。